

今こそ、Let'sを意識して、みんなで協力し合い、困難な状況を乗り越えよう

名古屋市立矢田中学校長 武田 一宏

昨年度(令和2年度)は、2か月間の臨時休業からのスタートとなりました。6月からようやく再開した教育活動も、様々な制約の中で、手探り状態で進めなければなりませんでした。「3密対策」をはじめとする新しい生活様式が求められる中、本校では、「私たち一人一人の『注意』と『行動』で、自分自身と、家族と、仲間の健康を守る」を合言葉に、検温や手指消毒、マスクの着用等を徹底し、「今、何ができるか」について知恵を絞り続けました。中止や規模縮小等の変更を余儀なくされた場面もたくさんありましたが、何とか教育活動を維持することができたのは、一人一人の生徒の皆さんの頑張りと、保護者や地域の皆様の協力と支援、そして、教職員の努力のお陰であったと、心から感謝しています。

本年度(令和3年度)は、幸いにも、4月から現在まで、休校等で止まることなく、教育活動を進めることができています。医療従事者の方に続いて、高齢者の方のワクチン接種もようやく始まり、状況が改善することを期待していましたが、思いとは裏腹に、変異株の登場により、昨年度よりも更に深刻な状況になりつつあります。愛知県下には、「まん延防止等重点措置」に続いて、「緊急事態宣言」が発令されました。今後も、国内の状況を注視しながら、教育活動を慎重に進めていかなければなりません。

日々の報道からは、緊急事態宣言下であっても、なかなか自粛行動がとれない人々がいる様子が伝わってきます。飲食等でマスクを外しているときに感染リスクが高まるのが広く警告されているにもかかわらず、つつい大きな声で会話をしてしまったり、適切な距離が保てなかったりしている光景が、学校生活の中でも見受けられます。「慢心」や「おごり」といった言葉で、感染対策に消極的な人々を非難することはたやすいことですが、それでは状況は改善しません。今、私たちに必要なのは、Don't(～してはいけません、禁止)の多用ではなく、Let's(～しましょう、共生)を意識して、みんなで一緒になってルールを守ろうという雰囲気をつくり出すことではないかと思います。

これから先も、「今できることを粛々と行う」ことを念頭に置き、情報収集に努め、感染防止対策に真剣に向き合いながら、全員で協力して前に進んでいきます。

(令和3年5月14日)